

## 蕨市多文化共生推進市民懇談会（第1回） 議事録

日時	令和7年10月3日（金曜日） 開会：午前10時30分 閉会：午前11時50分
会場	蕨市役所 4階 4-2大会議室
出席	市民懇談会委員 林大樹、植田富美子、上野梢、吉田悠一、阿部恒夫、石村宗侑、 新保和生、長谷川浩司、藤田明、マイ・タム、クローゼ・アーロン 床次泰文、白川ありさ、各委員 事務局（課長・川邊、係長・庄野）
資料	令和6年度蕨市多文化共生推進市民懇談会第1回資料 資料：『わらびらいふ』2025年9月Vol. 7

1. 開会（公開・傍聴希望者1名）

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）蕨市多文化共生指針に基づく取り組みについて

### 【質疑応答】

（委員）事務局から説明がありました議題（1）についてご意見、ご質問はございますか。

（委員）蕨市多文化共生指針に基づく取り組みと課題については、ホームページの多言語化などが進められているところですが、みなさんのお住まいの地域や団体活動などでそういった取り組みはありますでしょうか。みなさんの気付いた事で構いませんので率直なご意見をお願いします。

（委員）働いている外国人を多く見かけますが、話す機会や交流する機会は殆どありません。外国人が働いていることに好感を持っている人もいるし、否定的な感情の人も正直いると思います。色々な方法でそうした見えない壁を上手く取り除いていくことが必要ではないでしょうか。『わらびらいふ』を見てもらって、蕨で生活している外国人の様子を伝えるのも一つの方法だと思いますが、市民の方に広く見られているものではないと思います。市の広報やテレビなどで積極的に取り上げてもらう方が、市民に届くのかと思います。また、働いている方に話を聞くことが大切ではないかと思います。その方の背景にあるご家庭の話聞くことで様々な共通点を知り「私達と同じだ」と言った実感が持ちやすいと思います。市としても、積極的なアプローチをして頂けたら嬉しいです。

(委員) 地域で働いている外国人が増加していますが、交流する機会がないので積極的なアプローチが必要です。例えば、『わらびらいふ』を広報やケーブルテレビを通じて取りあげてもらおうなどして地域に広く周知してほしいです。

(委員) 施策の実施率は 80%、90%とあり、良くできていると思います。また、検討中のものについても説明で理解できました。ただ、これは「できた」、「できない」の判断だけなので、中には、実施はできていても実際の効果がない、といった実施の必要がない施策もあるのではないのでしょうか。そのあたりは、事務局では必ずしも把握できてないと思います。この後、委員の方から「これについてはどうなのか」などの意見がでたらいいのではないかと思います。

## (2) 各団体等における多文化共生に関わる意見・課題等について

### 【質疑応答】

(委員) 次に、議題(2)の各団体からの多文化共生に関わる意見などにつきまして、順番に発言をお願いします。

(委員) オーバーステイの方の情報は、行政として把握できないものなののでしょうか。

(事務局) 担当課では把握できているはずですが、庁舎内で共有はしていません。

(委員) 地域活性化とグローバル化の達成度が低いですが、商店街の多言語案内など、行政としては現時点でどの程度考えられていますか。

(事務局) 商工観光課が担当しておりますが中々そこまでは進んでいません。

(委員) 人口の外国人比率や各国籍別登録状況に比例して、店舗登録と経営者の登録でも外国人が大幅に増加しています。特に、中国人の経営者が圧倒的に多く、次にベトナム人の経営者が増加しています。経営者の方なので、日本語がそれなりにでき、やり取りについては問題ありません。ただ、日本企業との接点が薄いです。市内の(日本人が経営する)商店に関して外国人の客足が乏しいです。これだけ外国人が増加しているのであれば、顧客としてもターゲットにしていくべきです。多言語化を進めていくと交流ができ、経済方面にも波及していくのではないのでしょうか。庁舎の玄関スペースを使って、商工観光課担当がキッチンカー事業などをやっていると思います。外国人も出店等で参加できるイベントの開催や、外国人が主体的にイベントを開催できる体制を整える支援やサポートをし、そこに日本企業も参画できればより効果的だと思います。

(委員) 普段日本語ボランティア教室をやっている関係で出会う人は様々です。改めて見てみると、日本に働きに来ている外国人男性は日本語ボランティア教室

に来ていません。来るのはその配偶者の方や、留学生で日本語教室に通っていて日本語がわかっている方などです。また、子どもが母親と一緒に来た場合には私達是对応しかねます。ただ、そのような方々でも体制を整えば、受け入れたいと思っています。それが課題です。もう一つは、現在、市内各地域5地区に日本語ボランティア教室があります。塚越地域では、東公民館で日本語ボランティア教室を開くことができ、やっと全地域で開くことができました。そちらの話を聞くと、金曜日夜間の開催となっており、塚越小学校、東小学校、東中学校の3校が連携して開いたということです。子どもは、日本語教育センターで日本語の勉強をし、午後は普通学級に入って勉強します。そのため1日2時間しか日本語の勉強ができません。授業で聞く日本語は会話とは違います。外国の子どもが、1日2時間程度の勉強で日本の授業についていけるものでしょうか。

(委員) 夜間の教室はいいのではないかと思います。夜間に開催するので学校と重なりません。親御さんも日中働いていれば、夜間一緒に勉強することができます。ただ、活動が夜8時を過ぎますので、ボランティアの方にとって負担になるのではないのでしょうか。また、子どもの教育に対して専門的な知識があるわけではなく、本格的な日本語学習には至っていないと聞いています。学校の中で午前の2時間を使って日本語学習をする事になっていますが、市内で2カ所しかありません。今後は、専門的な知識を持った教師が専門職として就いていく必要があると思います。人口構成では、5歳から19歳の方が1500人程います。この方々が、日本で定住していくことになっていくのではないのでしょうか。そうした方に日本語教育をして欲しいです。そして、他の教室も似たような状況ですが、一番の課題がボランティアです。みなさん70代の方が大半です。日本語ボランティア教室を継続していくためには、現在のようなやり方では難しいと思います。これだけ多くの外国人がやってくる考えると、ボランティア頼みではない方法で巖市が関わる必要があります。実際、川口や戸田などはやっているようですので、そのような方法を検討して欲しいです。

(委員) ボランティアを頼るやり方でいいのかという声は色々なところで出ていますが、結局ボランティアの方に頼んでいる状況です。また、日本語教師も給料が安く、専属でできる状態ではないようです。国や市から助成を受けて活動できるような方法を考え、しっかり賃金がもらえる環境が作ればよいと思います。これからの時代、何でもボランティアを頼ることは難しいと思います。

(委員) 私は巖市に住んで7年目になります。来日した時、日本語ボランティア教室を探すのが大変でした。教室には「日本語がわからない人」「日本語に不安がある人」が来るとは思います。連絡先として電話番号が載っていて、日本語がわからない人にとっては電話で問い合わせをするのは難しいです。また、

教室の情報が多くの人に公開されていないと感じました。例えば、SNSなどで“X”や“インスタグラム”が流行っています。外国人向けに、「日本語ボランティア教室が無料」といった情報をSNSで発信すればいいのでは、と思っています。2つ目は、(資料の)9ページの表で在留資格別外国人数を見ると、在留資格で1番多いのは「永住者」で、2番が「技術・人文知識・国際業務」でした。このグループは殆ど外国人労働者なので、あまり余暇時間がない人たちだと思っています。そのため、もしも、グローバル化推進のイベントを行う場合には、順位3番以降の家族滞在、留学生を対象にして、子ども向けのイベントを行った方がいいと思います。

(委員) 私はドイツでは、貧困の人、生活が苦しい人などの相談を受ける組織におりました。その組織の利用者は半分ほどが外国人でした。対象者は言語の壁もあることから、電気代の支払いや、運転免許の取得など、生活の様々な面で困難な状況にありました。経験上、ホームページの情報などは各自で翻訳ソフトなどを使って翻訳できます。本当に大変なことは、自分で様々な申請(例えば生活保護の申し込み)を電話などですることです。私自身も6カ月程蕨市に住んでいますが、まだよくわからないことがあります。質問ですが、そのような問題がある方にはどのようにサポートしていますか。

(事務局) ご自身の言葉で相談できるよう、県の多言語相談窓口などの専門機関とも連携しています。

(委員) 目的に応じて繋げることはできないこともあるとは思いますが、今の質問を踏まえてワンストップ対応をしてもらえるように庁内会議で検討して欲しいです。

(委員) 蕨市に40年住んでいます。以前、市民公園でクルド人の集まりが有名になった記憶があります。(資料で)100人以上が在住している国籍が8カ国以上あります。おそらく彼らのコミュニティがあると思います。市役所がそのようなコミュニティと接して欲しいと思っています。蕨市は、外国人が大幅に増加しているので、日常での接点を作りたいです。市役所で何か掴んでいければ紹介して欲しいです。

(事務局) 各国のコミュニティの把握ということでは国籍が多岐にわたっています。個人間の横のつながりがあるコミュニティは、情報の拡散や共有において有効です。町会とも連携し、こちらからも積極的に働きかけていきたいと考えています。

(委員) 私は日本語ボランティア教室に参加したことがあります。何年も前から市内の中学校全てで、日本語指導をやってきました。今年は、東中学校で日本語指導が必要な生徒を教えています。東中学校は支援を必要とする生徒がとても多いです。以前は、日本語特別支援教室に先生1人に対して2、3人の生徒がいました。今年は先生が1人で生徒が十何人もいます。その生徒達は学

年がみな違います。来日した日も違います。そこで基本的な勉強をして、学校の授業にいけます。ただ、中学校になると受験もすぐ目の前で、授業についていくのは大変です。一番困ったのは、日本の高校進学システムについて両親の理解を得ることです。例えば、蕨市在住の中国人コミュニティで、母親同士のグループがあります。そこで、グループの友人から聞いた情報がベストだと思い込む人がいます。そういった母親に、生徒の能力によって違う選択もあるよ、と説得するのが難しいです。おそらく、学校の先生だけで対応するのは大変だと思います。外国の方もPTAに参加されたら良いのではないのでしょうか。悩みや高校進学システムについてなども相談ができると思います。また、日本語ボランティア教室で、そういった経験談を話すのも良いと思います。

(委員) 私は人権擁護委員から参加しています。人権相談の観点で言うと、最近法務省が、外国人相談専用ダイヤルとメールでの相談受付を始めました。そこで、例えば、外国籍の方専用の相談窓口を一覧にし、市のホームページに掲載するのはどうでしょうか。先ほど委員からもお話があった通り、日本語のページでも自動翻訳などで対応可能です。一覧表を目安とすることで、必要な支援へスムーズに繋がられるのではないのでしょうか。以前、私も外国の方の相談を受けたことがあります。日本語ができなくて内容が伝わりません。通訳の人もいましたが、その人も外国の方だったので、結局二重に伝わりませんでした。あらゆる相談窓口がある事をホームページに掲載するのはどうでしょうか。

(委員) 蕨市文化協会から参加しています。秋には文化協会で色々なイベントを行っています。昨年からは、外国人でもわかるように「入場無料」等の表記を多言語で行ってはどうかと提案をしていますが、これまで反映されていません。言葉がわからなくても、(イベントは) 見て楽しむ事ができます。外国の方に参加して欲しいです。

(委員) 私は公衆衛生推進協議会から参加しています。また、町会長もやっています。地域には中国出身の方が多いです。以前はごみの分別がわからない方が多く、ごみ置き場が汚くなっていました。なんとかしなければと、地域の日本語が話せる方に通訳を依頼してみたところ、その方が承諾、協力してくれまして、そのおかげで、現在はごみ置き場がきれいになっています。また、うちの町会では中国の方やアメリカの方も活躍しています。別件ですが、先日、公衆衛生推進協議会の理事会がありました。一番の議題はリチウムイオン電池の問題です。7月中旬に起きた蕨・戸田衛生センターでの火災も、問題はリチウムイオン電池ではないかと考えられています。衛生センターは未だに稼働していないため、ごみの排出先は、和光市、川越市、越谷市、および東京23区となっており、莫大な費用が掛かっています。リチウムイオン電池は、携帯電話、電子たばこ、色々と入っていますし、その処分の仕方は、日本語

だけでは理解できません。外国語でポスターを作成して回覧するようにします。分別を必ずして欲しいです。

(委員) 学生として、多文化共生の観点で最も関心があるのは、クルド人の問題です。市内にあるクルド人の日本語教室に『わらびらいふ』とみんなの広場のチラシを持って行きました。教室で「これらを知っていますか」と聞いたところ、「全く知らない」と言われました。今後、多文化共生を行う上で蕨市は、クルド人とコミュニケーションを取っていかなければならないと思います。クルド人へのアプローチや情報伝達を改善していけたら良いのではないかと思います。

(委員) 市がドイツのリンデンと市民交流をして 50 年になります。去年ドイツからメンバーが来ました。来年は蕨市から 30 人位のメンバーがドイツに行きます。やはり、地域のコミュニティに入ることが言語を覚えるには一番早いです。難しい会話ではなくて、一般の人々の会話を覚えたほうがいいです。私達もドイツに行った際は、そこのコミュニティに入り、ドイツ語を覚えて帰国します。私達は、クリスマス会やオクトーバーフェストなどのイベントをやっており、来年はこちらからドイツのリンデンへと交流に行きます。市の広報紙などでお知らせしますので、ぜひご応募していただきたいです。

(委員) 大学の教員をやっていました。学会などで蕨に限らず、色々な人との付き合いがある中で、多文化共生については、ずっと関心を持って勉強などしてきました。身近なところで多文化共生があった例をお話しします。私が数年前から知っているブックカフェは、蕨駅の東口から歩いて 10 分位の商店街です。最近、店長が変わって若い人になっていましたが、前店長がやっていたクルドとの関係は現在も続いており、月に 1 度クルド料理が食べられるイベントがあります。クルド人お母さんの家庭料理です。本屋なので怖い事はありません。ネット上で「蕨は怖い」という方もいますが、実際にはそうではありません。クルドの文化に触れる環境が近場にあることを良かったと思っています。

(3) その他

4. 閉会